

IoT時代の産業生態系を見通して知財マネジメントを
デザインできる人財をいかに育成するか

筑波大学大学院ビジネス科学研究科
立本博文

tatsumoto@gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp

課題(一般的な意味で)

1. 新技術の影響

- デジタル/ネットワークによる「つながる」ことの影響
 - すべてを自分ではできない/すべてを自分でやる必要はない
- 膨大なデータの出現
(センサーネットワーク/テキストマイニングによる情報密度が小さい巨大データ群)
- 統計モデル/機械学習の高度化による「データ処理の圧倒的なコストダウン」
- ハードウェア/ソフトウェアはこの流れに対応する模様。問題は人間/会社/社会?

2. グローバル化

- 各国の違いを残したまま、「国境」の意味が薄れる
- 国境を越えたサービス提供は「非常に容易」。頻繁な越境市場参入
 - ボーングローバル企業(BGC)/国際ビジネスは大企業だけのものではない
- 新しい南北問題? それとも極端な1極集中?
 - プラットフォーム企業は米国に極端に遍在

3. 次世代人材の不足

- 圧倒的なソフトウェア/システム人材の不足→産業の競争力に直結
- すでに社会に出てしまっている人(間に合いません。自分でどうにかしてください)
- まだ社会に出ていない学生:しばらく乱気流が続くとおもうのでがんばってください
- これから義務教育を受ける人: 義務教育カリキュラムから変えないと、大量に失業者を生むことに・・・
 - イギリスでは5歳からプログラミングを教える・・・

課題(次世代知財人材の意味で1)

1. 新技術の影響:

- パソコン文化が、他の産業へ波及する。
ビジネス・スタイル(一言で言えば「オープン&クローズ」)も。
 - 自動車分野は? 船舶や航空機は? 工作機械は?
- オープンでなかった産業はオープンに。
すでにオープンな産業はさらにオープンに。競争は激化。
- オープン化とともに新規参入が多発。
いままで沈静化していた業界で、知財係争が勃発。
- オープンの名の下に、今まで構築してきた知財ポートフォリオが無効化?
- 特許、著作権(ソフトウェア)、意匠権のポートフォリオバランスが変わる?
- 流動化する産業構造を、自社のビジネスモデルに従って解釈できる知財マンが必要に(でも、そんな人、ほとんど見たことない。これから作る必要がある)

課題(次世代知財人材の意味で2)

2. グローバル化

- 創薬/医療、インフラ、エネルギー分野など各国規制に守られていた分野が、国際競争にさらされるように
- パソコン文化に影響を受けた「オープン&クローズ」モデルの応用例が頻繁に見られるように
- 先進国産業 vs 新興国産業の対立がさらに激化。
しかし、一方で、着地点は先進国企業と新興国企業の協力的分業
- その際、技術力や知財は(本来は)先進国産業の協力的な武器に。
- 海外拠点と本社知財とが同じ言葉を話せるようにする必要がある。
さらに、海外の知財に強い知財(弁護士)事務所との連携が必須に。
- 知財人材の横串連携(時間軸、地理軸、組織軸)の活動が非常に重要に。

課題(次世代知財人材の意味で3)

3. 次世代人材の不足

- いまのところ次世代人材を育成するような決定的な環境は存在しない
- 現在、新しい試みがなされている:

社内:

- ・知財をライン(戦略部門)とスタッフ(業務部門)に分ける
- ・本社の知財スタッフを事業部籍にする
(知財の創造性は事業を知ることから)

教育環境:

- ・社会人大学院(新技術を知る/他業種を知る/新しい情報を得る)
- ・より専門的なコース
(東京理科大 知的財産戦略専攻/東工大知的財産戦略コース/
KIT虎ノ門大 知的財産マネジメントプログラム)
- ・横串機能に焦点をあてたプログラム
東京大学政策ビジョン研究センター
「戦略タスクフォースリーダー 養成プログラム」